

**跡見学園女子大学
外部評価報告書
(2023 年度)**

**令和 7 年 2 月 1 4 日
跡見学園女子大学 外部評価委員会**

(公財) 大学基準協会第3期基準(基準2、4、5、9)に基づく令和5年度自己点検・評価
外部評価委員会による評価

(1) 総括	貴学は、大学の理念・目標の達成を目指して教育研究活動の充実に努め、情報科学芸術学部の設置準備を進めるなど、時代に合わせた大学の発展に向けた取り組みを行っている。内部質保証委員会を内部質保証推進組織と位置付け、点検評価を推進するとともに、外部評価委員会を組織し、その妥当性を高めることにも努めている。2022年度の大学基準協会の認証評価では適合評価を受けているが、今後の自己点検評価のあり方について、指摘を受けた項目を重点項目として、毎年度の評価項目を選定し、過度な負担とならない継続的な評価体制を目指した新たな取り組みを開始している。2023年度の外部評価委員会報告書において、個別の自己点検・評価シートにおいて対象とする評価項目間の繋がりが十分には把握しにくいので、評価項目を再考することが提言されたが、時間的制約により困難であったため、本年度は、大学基準協会の評価基準2(評価項目①、②)、評価基準4(評価項目③、⑥、⑦)及び評価基準5(評価項目②)、評価基準9(評価項目③)について自己点検評価を実施している。 基準2内部質保証については、「内部質保証の方針と手続」及び「内部質保証委員会規程」に方針及び手続が明示されており(評価項目①)、それらに基づいて全学内部質保証推進組織・学内体制は基本的には整備されている(評価項目②)。しかし、体制を示す「内部質保証の体制図」等において、全学自己点検・評価委員会、内部質保証委員会、自己点検・評価推進委員会の役割と具体的な関係性が不明瞭な部分もあり、よりわかりやすく工夫することが望まれる。また、教職員の自己点検・評価を大学がいかにして把握し、推進するかについて、現状では教員が授業アンケートをもとに個別に改善を行っている状況であり、把握方法について組織として何らかの改善を必要としている。今後全学的に課題改善のために計画されるFDを活用して授業改善を推進して教員のPDCAを学部や学科が把握することに繋げ、さらには学部・研究科の教育課題を全学組織が適切に把握することで、内部質保証のPDCAを機能させ、全学的な教育改善に繋げることを期待したい。 基準4教育課程・学習成果については、教育課程の編成方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している(評価項目③)。また、学位授与方針に明示した学生の学習成果については、学習ポートフォリオに蓄積されるディプロマ
---------------	--

	ポリシーごとに学習成果を計測することで、把握及び評価することを試みるなど多様な評価方法を検討しており、学習成果の達成度を可視化する仕組みの導入を図っている（評価項目⑥）。心理学部において、学習ポートフォリオを用いる履修指導に関するFDを行うなど、一部の学部ではあるが教員の問題意識から学部横断的な事例を扱うなど実質的、自発的なFDが定着しつつある点は高く評価できる。しかし一方、学習ポートフォリオへの入力件数が少なく、成長の実態を適切に計測できているかについては検証が必要である。 さらに、教育課程及びその内容の適切性の点検評価（評価項目、⑦）については、全学生を対象に毎年度「学生生活調査」を実施し、学生目線からの適切性に関する改善策を大学全体で共有することで、部分的にはあるが改善につなげている。本年度からアセスメントポリシーを策定する予定とのことであるので、今後は教育目標の達成度に関する教育課程の適切性についての検証を推進することが望まれる。 基準5 学生の受け入れに関しては、学生の受け入れ方針に基づき、制度や運営体制を整備し、公正に実施している（評価項目②）。ここ数年続く定員未達の改善に向けて、令和8年度に向けてデータサイエンスの技能を生かした文理融合型の新学部（情報科学芸術学部（仮称））の設置準備を進めていること、また、入試制度に関しても、スカラシップ型の入試を導入するなどの工夫を継続するとともに、専門家を招いて広報室を設置して入試広報の刷新に努めていることは学生確保の改善点として評価できる。また、高大連携校の拡大を目指した特別指定校制度を作り、高大連携校に対しては、大学の学びを高校生に体験させる「探究学習プログラム」を実施するなど、高校への新たなアプローチにも注力している。 基準9 社会連携・社会貢献に関しては、近隣大学に比して地域貢献を積極的に進めている大学であり、地域交流センター運営委員会において定期的に点検評価を実施し、改善向上に向けた取り組みを行っている（評価項目③）。しかし一方で、「学生生活に関する調査」のアンケート結果から、学内の地域交流が学生に認知されていないことが課題となっているので改善を要する。また、活動が特定の教員に支えられている点については、地域交流センターの重要性を学内で広く共有し、全学的に活動が広がるよう状況の改善が必要であろう。
(2) 長所	ここ数年続く定員未達の改善に向けて、既存学部の再編も視野に入れ、データサイエンスの技能を生かしたメディアアートについて学ぶ文理融合型の新学部（情報科学芸術学部（仮称））の設置準備を進め

	ている。東京 23 区における定員抑制の中で高度なデジタル人材を育成するための制度を利用したものであり、女子学生確保と時代に合わせた女子教育の新しい展開を目指す挑戦的な試みは、貴学の特徴と評価する。
(3) 参考意見	来年度の外部評価委員会では、大学基準協会の全基準についての自己点検評価シートについて審議する予定である点を考慮すると、資料送付と委員会開催の期間が短いと外部評価委員としても十分な準備ができないので、資料送付を早めにし、分担を決めるなどの措置を検討してほしい。

跡見学園女子大学 外部評価委員会 開催状況

令和6年度

区分	開催日時・場所	主な議事	出席者
第1回	令和6年11月28日(木) 14時30分～16時00分 跡見学園女子大学 文京キャンパス2号館3階 M2301教室	・学長挨拶 ・委員及び大学出席者の紹介 ・大学の運営に関する現状及び課題の説明 ・自己点検・評価シートを用いた毎年度の自己点検・評価の説明 ・委員からの質疑意見	白幡委員長 大場委員 栗田委員 成澤委員 宗像委員

跡見学園女子大学 外部評価委員会 委員名簿

委員長：白幡晶（城西大学前学長、城西短期大学ビジネス総合学科副学長）

委員：大場昌子（日本女子大学文学部教授）

委員：栗田啓子（東京女子大学名誉教授）

委員：成澤廣修（文京区長）

委員：宗像和重（早稲田大学名誉教授）

（5名）